

実習用作業服について

1～3年次までの実習と4年次の卒業研究が必要です。次の要件を満たす服を作業服として認めますから、後期の授業開始までに必ず用意しなさい。

- 汚れても良いもの。
- 生地(素材)が綿製もしくは綿を含む混紡であること。
- 表面が毛羽立っていない生地であること。
- 生地の厚みは、ワイシャツより厚手のもの。
- 前方のみにつばのある帽子。
- 上着は、袖口(手首)・襟首(首まわり)・裾(お腹まわり)に隙間がなく留められ、皮膚が露出しない長袖であること。
- ズボンは、ウエスト(お腹まわり)に隙間がなく、皮膚が露出しない長ズボンであること。
- 上着およびズボンなどに余計な装飾がないもの。
- 上下セパレート(右図)でも、つなぎでも良い。
- 靴は底が厚めで多少の傷がついても良いもの。くるぶしの下からは全て覆われており、表面に穴などが開いていないこと。
- くるぶしより上の皮膚が露出する靴の場合、靴下を履くこと。

更衣室がありますので、授業前に着替えられます。

高温の金属の切りくずや溶接の火花が当たる場合があります。熱で溶ける生地は安全のため認められません。

ニットなど不可。

野球帽などで良いです。高温の金属の切りくずが髪の毛の中に入らないようにします。前方につばがあることで、顔に物が当たることを防げます。

高温の金属の切りくずや溶接の火花などが飛ぶ場合があり、この辺りに隙間があると火傷を負う危険があります。

半ズボン不可。ベルト着用を推奨します。

引っかかったり、巻き付いたりすると、機械に巻き込まれて危険です。

高温で鋭い切りくずなどを踏み、穴が開く可能性があります。

サンダルなど踵が覆われていない履物は不可。

つばのある帽子

首まわりをしっかり保護できること

ウエストをしっかり保護できること

手首をしっかり保護できること

長ズボン

底が厚めの靴
くるぶしの下からは全て覆われていること

